



動物読書感想文コンクール作品
応募締め切りは1月22日です

ASAHIYAMA ZOO

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

さる 申年

今年は、申年です。二ホンザルについて少し詳しく書いてみることにしました。

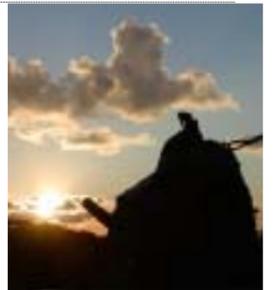
寒さにもわりあい強く、冬期開園中も皆さんに見てもらえる

ニホンザルは、日本列島固有のサルで、日本に

あけましておめでとうございます ことしもどうぞよろしく!

生息する唯一のサルなのです。

動物の中でも、とくにサルは古くから日本人となじみ深いかんけいにあったのでしよう。サル



の姿はよく各地の民芸品や民話・伝説にも登場

場し、重要な役割を演じています。また、『猿まわしの芸』や『さるかに合戦』に『桃太郎』などの話のほか『サル芝居』『サル知恵』『サルまね』など言葉の中にさえ登場してきます。



さる山

サルは昔から人間に最も近い仲間として受け入れられてきた動物なのです。

しかし、天然林がスギやヒノキの人口林に置き換えられ、サルの生息環境が空洞化したため、農作物を荒らすようになってきたサルの話はあつ

を絶たないようになつてきました。日本列島の自然保護全体の中でニホンザルをきちんと位置づけた上で、これに対する長期的な管理方針を立てなければなりません。

人間とサルがこれからも共生していくためには、科学的な共通認識に裏打ちされた親近感を持ち続けることがとても大切だと考えられます。

ふしぎ発見・なにか見つけてね! (No. 32)

(飼育展示係の人をさがして聞いてみてください!)

ニホンザル (霊長目・オモミダ科) 生息分布域 ← ニホンザルは、霊長類の中(人を除く)で最も北まで分布しています。

北は、青森県の下北半島から南は、屋久島までの暖温帯の常緑広葉樹林・落葉樹林と冷温帯落葉・広葉樹林、

および、これらの地域に成立するさまざまな二次植生地に生息します。

日本アルプスでは、春から秋にかけて亜高山帯や時には高山帯を利用する群れもありま

す。食べ物=雑食性で、量的には植物が多く、果実や種子、花・葉・苗条・茎の髓が主なもので、



樹皮食だけでは1日の基礎代謝量をまかなうことができないので冬になる前にたくわえた皮下脂肪の消費によって冬をしのいでいるのです。また、どの群れでも必ず土を食いますが、これは無機塩類を補給するだけでなく、植物に含まれているタンニンなどの成分を消化管の中で

吸着させ排出する意義もあると考えられています。ニホンザルは、多くの場合、視覚によって瞬間的に食べ物を選択していると思われる

が、じつと見たり、においを入力であとで初めて食物を口に入れることもありま。食物を獲得するまでに使われる技術は多種多様で、食物の品目や形態とその位置などによって使い分けられています。

その他 耐寒を優先させる機能を獲得するために、どちらかというとき暑さには弱く、逆に寒さには比較的よく耐えることができるのです。

野生のサルがどのような病気にかかるかはよく分かっています。せんが、日本脳炎などヒトと共通の何種かのウイルスの抗体を持つている個体が見つかることがあつたり、飼育下では結核や赤痢をヒトからうつされやすいので注意が必要です。

消化器系寄生虫の感染率は野生ニホンザルでもかなり高く、鞭虫・胃虫・糞線虫・腸結節虫のような線虫類の他に、糸虫も見つかつています。サルに与える実害についてはまだよく調べられていませんが、これらはヒトへの感染も可能と思われるので、サルはペットにすべき動物ではありません。

参考資料(動物大百科=平凡社)